

している新美術館について、設計案を公募してコンペ方式で選考すると発表した。8月上旬に実施要項を公表

建設予定地は、北区中之島4丁目の大阪大医学部跡地1万3千平方メートル。佐伯祐三やモデリアニの作品をはじめ

する。コンペでは、事業費の上限を設けるほか、デザインだけでなく来館者の使い勝手なども

てはいけない。(審査会)で、有識者に機能性を判断してもらいた

新美術館は市制施行

東京都の舩添要一知事の海外出張費用が高額だったことが問題視

市規則は、条例と異なり、変更は市議会の議決を要しない。

(藤木俊治)

専門医「大阪プレストクリニク」芝院長に聞く

国内の乳がん発症率が年々上がっている。

国立がん研究センターは2015年の罹患数を8万9千人、死亡者数を1万4千人と予測。20年前と比較し、罹患率は3倍に増え、12人に1人が乳がんを患う割合だ。歌舞伎俳優の市川海老蔵さん(38)が、妻でフリーアナウンサーの小林麻央さん(33)が乳がん闘病中であることを公表し、衝撃を与えた。一方で、診断後の5年生存率は約9割。早期発見が、その後の人生を左右する。乳がん急増の背景と検診の重要性について、乳がん専門の「大阪プレストクリニク」(大阪市福島区)の芝英一院長(65)に聞いた。

(光長いづみ)

年1度乳がん検診を

生活の西洋化で急増

「乳がんが急増している要因は。生活スタイルの西洋化が一番の原因。乳がんは20歳になるくらいで

がんは乳腺の上皮細胞ががん化すること。遺伝性の乳がんは全体の5〜10%で、70〜80%は女性ホルモンによって増殖する。昔は女性

「初潮が早い人、閉経が遅い人。家族が乳がんになったことがある人。乳がんになる年齢のピークは50歳前後。がんは一般的に高齢者の病気だが、乳

んは若年層もなるのが問題だ」

乳がん検診 各自治体は、検診費用を一部補助している。

大阪市では、30歳代を対象に超音波検査は千円、マンモグラフィー検査は40歳以上を対象に1500円で実施。いずれも市指定医療機関で受診する。マンモグラフィーの補助は受診が2年に1回の場合のみ。



「早期発見すると治る率が高くなり、治療内容も違って」と、検診の重要性を強調する芝院長。大阪市福島区

「乳がん検診は30歳代は超音波検査、40歳以上は放射線を使うマンモグラフィー(マンモ)を推奨している。」

術で左右されることもあって、検診は年齢だけでなく、乳房の性質や喫煙しないこと、規則正しい生活が挙げられるが、100%ではない。だからこそ早期発見が大事。早期発見だと、治る率も高くなり、治療内容も違ってくる。余裕があれば、1年に1度は受けたほうがいい。お乳と命を守るためにも検診を受けてほしい」